

消防だより

火の用心

Tokamachi Fire Department

No.79



平成26年1月5日

特集

【共助】

「自分たちのまちは自分たちで守る」

火の用心

十日町地域消防本部
十日町市消防後援会

火の用心
十日町市消防後援会

火災の警報に
住宅用
火災警報器
安全な暮らしを守る

火の用心

写真>十日町市立高山保育園年長組と十日町市消防団女性部「つくし」

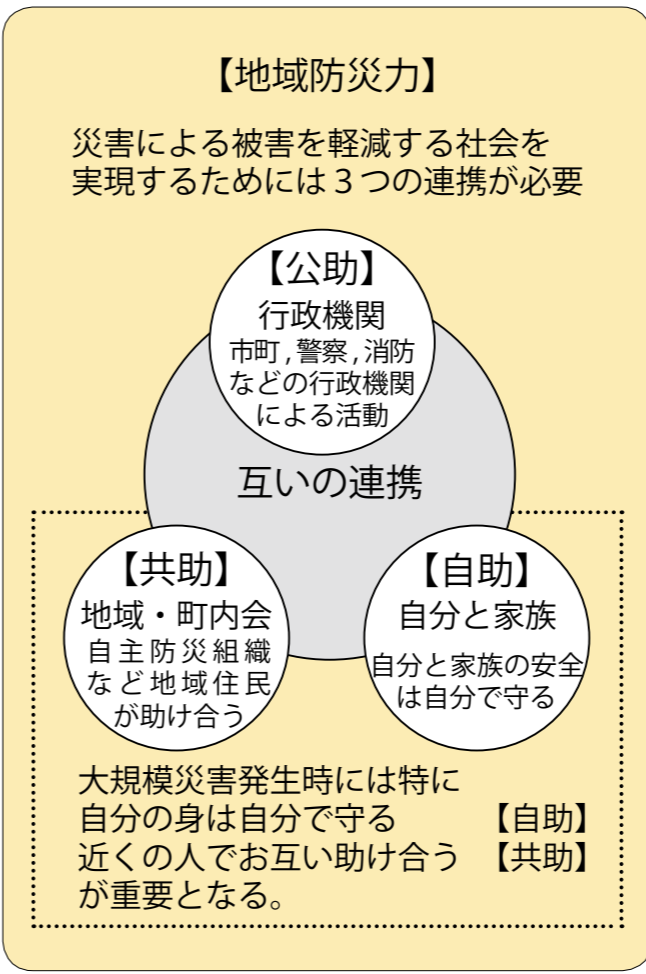
【共助】

「自分たちのまちは自分たちで守る」



地震や自然災害により引き起こされる災害に対処するには、地域防災力の向上が必要となります。左の図のように「自助・共助・公助」の連携により、人的、物的被害を軽減することができます。しかし大災害が発生したとき、警察や消防など公的機関が行う活動【公助】は交通網の寸断や、さまざまな現場対応に追われ、すべてに手が回らない可能性があるため、個人の力で災害に備える【自助】とともに、地域での助け合い【共助】による地域の防災力が重要となります。

今号の特集は、安心安全なまちづくりを推進していくために、地域が担っている役割【共助】について取り上げます。



【共】に助け合う

「自分たちのまちは自分たちで守る」。これが、地域を守る最も効果的な方法です。そして、地域を守ることは、自分を守ることです。

地震が発生し、自分や家族が生き埋めになったとき、それに気付き、救出活動を始めてくれるのは誰でしょうか？

地震のような広域災害では、警察や消防などの防災機関は、同時にすべての現場に向かうことはできません。また、被災地の外からの応援部隊の到着には時間がかかります。近隣のみなさんが救出してくれるのを待つばかりではありません。

では、誰が自分や家族を救出してくれるのでしょうか？

それは地域の住民です。

災害時はもちろんのこと、平常時においても密接な地域コミュニティの中で、予防啓発活動や防災訓練などさまざまな活動を行い、近隣のみなさんと協力して、地域を守る備えと行動がまさしく【共助】なのです。



水沢女性防火クラブ

水沢女性防火クラブは、水沢地区の女性16人で結成されました。

活動内容は、水沢地区の防火広報パトロール、小学校や老人クラブへ出向き防火講話や初期消火訓練、避難所の確認、炊き出し訓練などさまざまな活動を行っています。

会長の櫻澤秀子さんは「平日の昼間は男性が仕事で不在となり、残るのは女性が高齢者。その時に火災が発生した場合、できることは初期消火くらいに限られる。だから火災を起こさないのももちろんのこと、いざというときのために、消火器の操作ができるよう、訓練を投げかける。

また、住宅用火災警報器の設置も、高齢者住宅を訪問し、近所付き合いがあるからこそ、親身になって話することができ、設置してもらえた。このような組織が各地に広がってほしいですね。」と語っています。



水沢女性防火クラブ
会長 櫻澤秀子さん

応急手当の普及指導



住民によるバケツリレー

平成16年10月23日、管内に大きな被害をもたらした新潟県中越地震以降、管内では地域の振興会・町内会が中心となり、自主防災組織（会）や女性防火クラブなど防災に携わるさまざまな組織、団体が設立され、地域と密接に活動することで共助の強化が図られています。ここでいくつかの組織、団体を紹介します。

西部地区 自主防災・防犯連絡会

西部地区自主防災・防犯連絡会は、旧十日町市西部地区の16町内（1077世帯）で構成され、地区防災訓練、拍子木を用いた防火広報や震災時の町内一時避難先を記載した防災マップの各世帯配布などの防災活動を行っています。

会長の庭野鉄雄さんは「地域の安心安全なまちづくりのために自主防災組織は絶対に必要であり、いざというときに威力を発揮できなければ意味がない。毎年訓練を続けていくことが大切で、あの家の誰々は足が不自由、高齢者の一人暮らしなど、地域に密着しているからこそわかることがある。地域全体で協力し、特に高齢者を救うために消防団も含めたうえで、地域に住む人を地域全体で守る体制を整えている。」と語っています。



西部地区自主防災・防犯連絡会
会長 庭野鉄雄さん



9月に行われた新潟県・十日町市総合防災訓練には400人が参加。（住民避難誘導訓練の様子）

メモ

自主防災組織（会）とは

住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」そして、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方にたって自主的に防災活動を行う組織のことをいい自治会や町内会などの地域活動の組織を生かして結成されるのが一般的です。

メモ

女性防火クラブとは

家庭からの火災の発生を防止するため、火災予防知識を習得し、地域における連帯意識を強め、防火思想の高揚を図ることを目的とし、主な活動内容として、火災予防などの広報活動、研修会、各種行事への参加など、防火啓発活動を行います。

十日町市池沢地区で高齢者に消火器の取扱いを指導する様子



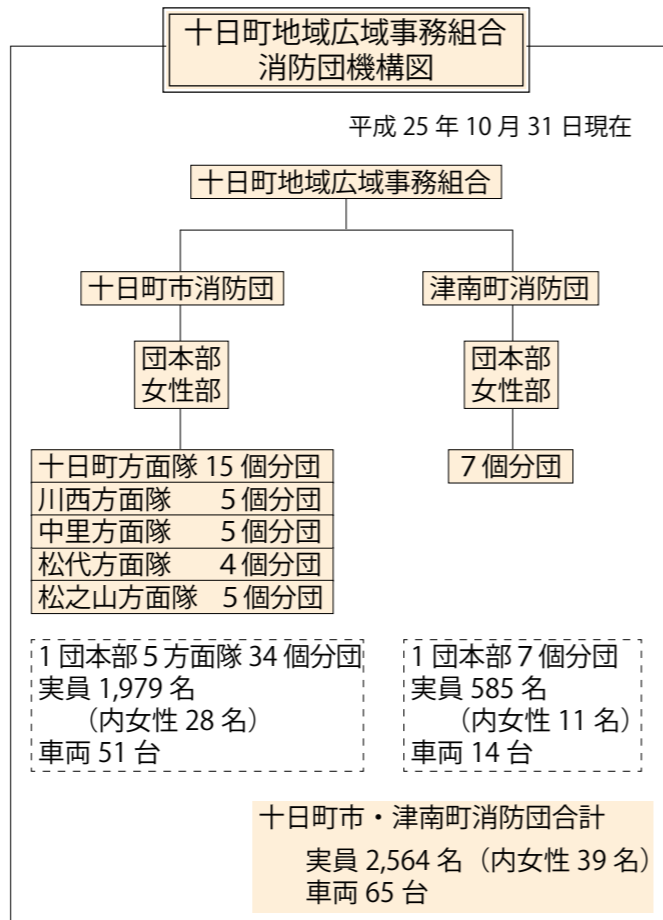
十日町市消防団 津南町消防団の概要

平成 24 年中消防団出動状況

	十日町市 消防団	津南町 消防団	計
火災	15 回	3 回	18 回
救助	2 回	0 回	2 回
捜索	6 回	0 回	6 回
風水害等	2 回	0 回	2 回
演習・訓練	173 回	25 回	198 回
特別警戒	109 回	23 回	132 回
その他	22 回	0 回	22 回

消防団の主な年間行事等

1 月	消防出初式
4 月	新入団員教育訓練 幹部校外講習 春の火災予防運動防火広報
5 月	信濃川水防訓練
6 月	春季消防演習
6～7 月	ポンプ操法競技会
9～10 月	秋季消防演習
11 月	秋の火災予防運動防火広報
12 月	年末防火広報



地域防災の要
地域防災をリードする
消防団

地域防災力を考える上で必要不可欠な消防団。
地域のことをよく知っている消防団は、火災や震災時、地域に密着した効果的な消火活動・救助活動を行うことができます。
また、平常時においても、訓練のほか、応急手当の指導、広報活動など、地域における消防防災のリーダーとして、重要な役割を担っています。

写真<中里方面隊秋季消防演習



どこがちがうの?
消防士と消防団員の見分け方

「同じ服を着ていて見分けがつかない」ということを、よく耳にします。確かに服装を見れば同じ色で分かりにくいかもしれませんが、消防士と消防団員には次のような違いがあります。

消防署	消防団
マーク 桜型!!	マーク 桜型



消防団

十日町市・津南町では2500人以上の消防団員が活躍しています。消防団員は、それぞれの仕事もちながら災害などの対応にあたる非常勤特別職の地方公務員で、行政の一部【公助】に該当すると考えられますが、ここでは地域密着型の消防団の役割として【共助】として考えます。

【共助】における消防団の役割

防災の視点に立つての地域づくりを推進するには、自主防災組織をはじめとする地域住民が、行政や消防本部・消防署や消防団で構成する消防機関との緊密な連携をとりながら、一体となって取り組んでいくことが必要です。

消防団は、我が国のほとんどの市町村に設置されている歴史ある組織であり、防災機関の中で最も地域に密着した活動を展開しているとともに、防災面において十分な訓練と経験を積んでいることから(下写真)、それぞれの地域でリーダーシップをとり、自主防災組織や住民に対する訓練指導、防災啓発活動や救急講習を行うなど、地域防災力の向上を図るうえで、地域防災の要となっています。

水防訓練



初期消火訓練指導



救急講習



除雪作業ここに注意

- ・1人でしない、無理は絶対にしない
- ・屋根やはしごからの転落を防ぐために、足場の確保、はしごの固定をしっかりと
- ・流雪溝、水路などの転落防止柵は外さない
- ・除雪機に雪が詰まったら除去作業は必ずエンジン停止

除雪中の事故によって毎年犠牲者が出ています。昨冬は35件の救急搬送があり、死者が2名となっています。除雪作業により、疲労が溜まったリ、「経験・慣れ」からくる油断が事故につながります。また、1人で作業することで、事故発生から発見されるまで長時間を要し、救命できなかったと思われるケースがあります。

除雪

除雪に関係する救急搬送35件・死者2名



回転部分に手を入れる際は必ずエンジン停止！

シーズンの初めやはしごを登るなど作業開始時における事故が目立ちます。屋根に上る前に屋根の形状を確認するとともに、準備運動をしてから除雪を行いましょ。また、除雪機に挟まれたり、除雪機に詰まった雪を除去する際の事故も発生しています。周囲の状況をよく見るとともに、除雪機の回転部分に手を入れる際は必ずエンジンを停止しましょう。

火災

建物火災7件発生・死者4名

寒い時期を迎え、暖房器具など火の取扱いが増えることで、火災の発生が多くなります。普段の心がけや、点検により未然に防ぐことができるので注意しましょう。また、雪により出入口が塞がることで、避難が困難になることがあります。屋根の雪下ろし、家周辺の除雪の際は、避難口を2方向以上確保するよう心がけましょう。

火災はここに注意

- ・洗濯物はストーブの上や近くには絶対干さない
- ・給油の際は、ストーブを必ず消す
- ・薪ストーブの燃えが弱くなったり、煙突の継ぎ目から煙が出てきたら必ず点検を行う
- ・避難口を2方向（以上）確保する

少なくとも1年に1回は作動点検をしましょう！



せっかく設置したのに正常に作動しなければ意味がありません。点検方法は引きひもを引く、ボタンを押すなど簡単にできるので、定期的な作動確認を行いましょ。

住宅用火災警報器の点検をしていますか？



ボタンを押す

ひもを引く

冬本番を迎え、この地域では雪による事故や、寒さなどによる病気により尊い命・財産が失われています…

そのほとんどの原因が私たちのちょっとした不注意や油断によるものです。それらの事故や病気から身を守る方法について考えてみましょう！

※タイトル、本文中の対象期間は平成24年12月から平成25年3月末日までの期間です

毎年のことだから…と油断していませんか？
冬の事故はここに注意しましょう！

入浴時ここに注意

- ・脱衣室に暖房、浴室は浴槽のふたをあらかじめ開けておくなど脱衣室、浴室を暖める
- ・熱いお湯いきなり入らずお湯を体にかけ、熱さに体をなじませてから湯船に入る
- ・多量飲酒後は入浴しない

屋内で多い事故（病気が、脱衣所、浴室内で発生しています。昨冬、脱衣所、浴室内で発生した救急搬送は49件で死者が13名にもなっています。（全て65歳以上の高齢者）高齢者1人での入浴時は、こまめに声をかけ、事故防止と早期発見に努めましょ。

急病

入浴に関係する救急搬送49件・死者13名



「さ、やむい…」

暖かい部屋から暖房の効いていない脱衣所に入り、脱衣をする。更に、暖まっていな浴室に入れば凍えてしまします。体は体温を逃すまいと血管を収縮し、血圧を上昇させます。そしていきなり熱いお湯に入ると更に血圧は上昇します。しかし、お湯の中で体が温まり出すと、今度は血圧は急激に下がり始めます。このように、大きな温度変化は心臓や血管に大きな影響を与え、心疾患や脳疾患を発症させることがあります。安全に入浴をするために温度管理に気を配りましょ。また、病気の発症時間は、病院へ行ってからの処置に大きく関係します。何か症状が出た場合は、その発症時間を救急隊などに伝えてくださ

油流出ここに注意

- ・ホームタンクから小分け中はその場を離れない
- ・ホームタンクの下に防油堤を設置する
- ・除雪作業時には配管の周囲も確認する
- ・配管や給油口は定期的に点検する

暖房器具を使用する季節になり、家庭での灯油の使用が増えると、油漏れ事故が多発します。油漏れは、火災の危険があるほか、土壌汚染、水質汚濁など、環境に大きな影響を及ぼします。事故の原因は、不注意や施設の管理不十分によるもので、注意すれば防げるものがほとんどです。

油流出

油流出事故22件
約1200リットルの油が流出

給油中の合言葉

給油中！
2分間、注ぎ口を見守って！！

油漏れストップ！ 新潟県



油漏れ事故を起こしてしまつたら、新聞紙や布きれなどで油が水路などに流れないように応急処置をしてください。また最寄りの消防署・市町などに通報してください。すみやかな通報で、被害の拡大を最小限に食い止められる場合があります。

防災 防災安全標語コンクール 火災予防標語決定

十日町南地域自治振興会防災安全部会（鈴木龍次部会長）は、「家族みんなで標語を作ってみよう！」と題し、南地域（川治地区）住民へ火災予防・振り込め詐欺予防に関する標語を募集、多くの作品の中から特別賞・優秀賞が決まり、10月6日川治公民館において表彰式が行われ、表彰状と記念品が贈呈されました。

火災予防標語の特別賞・優秀賞の作品は次のとおりです。

【特別賞】1作品

・怖いのは「うん、大丈夫」の思い込み
寝てから襲う火の恐怖
遠田 由美 さん

【優秀賞】4作品

・危ないと いつも心に 火の用心
佐藤 佳代 さん

・消すまでは その場をはなれず 火の用心
石田 松男 さん

・今一度 声出し点検 火のしまつ
遠田 信明 さん

・寝る前に 家族で確認 火の元を！
酒井 信秀 さん

幼年消防 北越保育園が優良 幼年消防クラブ表彰受賞

社会福祉法人北越福祉会北越保育園（中村田鶴子園長）が、消防団120周年・自治体消防65周年記念優良幼年消防クラブ表彰を受賞しました。

この表彰は日本消防防火・防災協会が日頃から積極的に地域の防火防災活動に活躍している模範的な幼年消防クラブに贈るもので、全国で38クラブ、新潟県内では北越保育園が唯一表彰されました。

北越保育園は、防火パレード、老人ホームや消防ひろばでの鼓笛隊の演奏披露などの活動をとおして地域および幼児に対して正しい防火教育の普及に努めていることが評価されました。

中村園長は、「普段から地道にやってきましたことが評価されてうれしい。保護者や地域のみなさんの協力があったからこそ受賞。これからも続けていきたい。」と語っています。



表彰状と記念品を受け取る
中村園長と園児

講演 十日町地域広域事務組合 発足40周年記念講演会



NHK解説主幹 山崎登講師

十日町地域広域事務組合は昭和47年に発足し、今年度で40周年を迎えた記念事業として10月28日（月）に記念講演会を開催しました。

講演会は、NHK解説主幹の山崎登氏を講師に迎え「これからの地域防災く防災から減災へ」の演題で市町議員、消防関係外郭団体、行政職員、消防職・団員など約250人が聴講しました。

山崎講師は、東日本大震災で中学生が率先避難者となり津波から多くの命を救い「釜石の奇跡」と称えられた岩手県釜石市の防災教育について触れ、「ハザードマップの想定にとらわれないで避難する。その状況で最善を尽くした避難をする。周囲の人の反応を待たずに、自分が率先して避難する。」という防災教育の心得を繰り返し教えた結果、震災時、中学生は、より安全な場所へ

と避難先を2回、3回と変え、その際も周囲にいる人を巻き込んだ避難をすることができた。」と、防災教育の重要性を訴えました。

あなただに夢を。街に元気を。

クマちゃん

赤色灯

みなさんは宝くじを買いますか？

私は今まで何度か購入するものもの

下1ケタの数字しか当たったことがありません…

それはさておき、昨年、火の用心No.75で紹介した津南町の笹沢少年消防クラブに活動服一式が（財）自治総合センターのコミュニケーション助成事業（宝くじの助成）として整備されました。【写真右参照】

高額当選しなくても、収益金がこうした活動に有効的に使われると思うと「当たらなかつたけど…誰かの役に立ってるからいいか！」と思うのは私だけでしょうか？（コバ）

消防だより
火の用心



発行 十日町地域消防本部 〒948-0036 新潟県十日町市北新田一番地10
編集 総務課庶務広報係 電話 025(757)0119 FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-kouiki.jp/ ■ Eメール tfo119@tokamachi-kouiki.jp